



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

秋の保健医療学部通信発刊時期には例年秋の気配を感じるころですが、今年は9月に入っても暑い日が続いているようです。今年の夏は猛暑、酷暑でした。札幌では8月23日に観測史上最高気温である36.3度を記録しました。ここまで来ると、北海道でもエアコンは必需品になってきています。この猛暑を背景に小中学校が早退や臨時休校を繰り返したのも、そのエアコン設置率が低く学内環境での健康を保つことができないことにあるようです。ある報告によりますと、2022年時点で道内の公立小中学校のエアコン設置率は16.5%であり、公立高等学校では0.7%とのこと。本学保健医療学部も、以前はエアコン設備がなく暑い中での講義、実習を展開していたわけですが、今年のような酷暑ではこれも不可能だったかもしれないと思返しています。現在では新キャンパスの全館にエアコンが効き学生の学びの環境が確保されており、快適な中で学生が過ごしています。この環境を用意し支えていただいている北海道そして道民や保護者の皆様には改めて感謝しているところです。



このように施設的にアップデートされてきている本学部も、先の通信でもお伝えしていました通り本年開設30周年を迎えております。開設30周年記念ホームページでは、これまでの実績を様々にご紹介させていただいております。なかでも、本学卒業生の活躍を紹介するビデオシリーズでありますREP Talk<保健医療学部の卒業生が出演し、Research (研究)、Education (教育)、Practice (臨床実践)に関するトークを行う動画コンテンツ>は、見応えがある内容になっております。本学での学びを基盤に、北海道そして我が国の保健医療に尽力している状況は、本学での学びが導く将来のインスピレーションを感じ取ることができるものと思います。ぜひ、本学の学びの延長線上にある活躍を共有いただき、今の保健医療学部での学びそして将来にむけた方向性など学生とお話しいただく材料にいただければありがたいと思います。年度内は毎月1本程度の追加をすすめ、コンテンツを増やしていく予定です。

我々教職員も30年の節目での実績を振り返り、これらからの社会で必要とされる保健医療を見定めながら、さらなる充実した教育環境の整備を進めるとともに有意義な学生生活となるようサポートしてまいりたいと思います。

保護者そしてご家族の皆様におかれましては引き続き感染予防にご配慮をいただき、本学へのご支援のほどお願いを申し上げます。

【令和5年度 前期学事 実施報告】 (1～4学年)

(4学年共通)

4月10日～4月12日 「保健医療総論1～4」
4月13日～ 前期講義開始
6月25日 大学記念日

(3年生)

8月7日～8月25日 夏季休業
8月28日～9月8日 前期定期試験(看護)
8月28日～9月15日 " (理学・作業)
9月11日～ 臨地実習(看護)

(1・2年生)

8月7日～8月25日 夏季休業
8月28日～9月15日 前期定期試験

(4年生)

4月17日～ 臨床実習(作業)
5月8日～ 臨床実習(理学)
7月24日～8月4日 夏季休業(作業)
7月14日～7月28日 前期定期試験(看護)
7月31日～8月4日 夏季休業(看護)
8月14日～8月18日 " (")
8月7日～9月8日 " (理学)
8月7日～9月8日 臨地実習(看護)



2 学年副学生担当教員よりごあいさつ

看護学科（澄川准教授、中村講師）



看護学科2年生副学生担当教員の澄川と中村です。保護者の皆様におかれましては、日頃より本学の教育にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

看護学科は副学生担当教員が1学年に2名ずつ配置されており、学籍番号の前半の学生を澄川、後半の学生を中村が中心となって担当しています。

2年生はコロナ禍でスタートした大学生活でした。本学は附属病院を有する特殊な環境下であり、他大学よりかなり厳しい学習・生活上の制限がありました。慣れない新生活に加えて、感染対策行動や体調の連絡・報告の徹底が必要となり、戸惑いも多くあったことと思います。

しかし、2023年5月の5類感染症への移行後は、マスクを外して講義を受ける姿や、教室の座席指定がなくなり休憩時間に友人同士で談笑する様子が見られるようになりました。必要に応じた感染対策を講じながら、やっと本来の学生生活を楽しんでいるように見受けられます。

2年後期の終盤には、初めて担当患者を受け持つ2週間の臨地実習が始まります。学生たちは大変な緊張の中、たくさんの方々の協力を得て実習に臨むこととなります。また、2年次から3年次になるために進級制限があることから、現在は、2年間の看護学の学習の集大成、3年次以降のステップアップに向けた大事な時期を過ごしているところです。保護者の皆様におかれましては、引き続き学生が学業に集中できるように体調管理を含めてご支援をお願いいたします。また、本学への教育活動に対する変わらぬご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

理学療法学科（井平講師）



令和4（2022）年4月から本学理学療法学科に入学された皆さんの副学生担当教員を務めております、井平光（いひらひかる）と申します。副学生担当補佐の佐々木健史（ささきたけし）先生と共に、第2学年の皆さんのサポートをさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類になって以降、多くの講義は対面で開催されるようになりました。第2学年後半には、臨床実習2の中で、実際の臨床現場において様々な疾患に対して基本的な理学療法評価・検査を実施する機会を得ます。したがって、実際の患者さんに対して、良好なコミュニケーションに基づいた正確な検査を行う事が求められ、これは、その先の治療や介入を行うための重要な過程です。患者さんと良好なコミュニケーションを取ることは思いのほか難しいものです。これまで積み重ねた知識としての学修に加えて、医療人あるいは社会人として必要なことを肌で感じるのはじめての機会になるかもしれません。その意味では、本学科クラス内の20人でのコミュニケーションを基本として、様々な人々と触れ合うことを促していきたいと考えております。保護者の皆様におかれましても、ぜひとも学生が医療人として成長する様子を楽しみにしていただきながら、引き続き本学の教育活動に対しご理解とご支援をお願いできますと幸いです。

作業療法学科（中島准教授）



作業療法学科2年生の副学生担任の中島そのみです。補佐の横山和樹講師と連携し、主に修学上の助言や相談といったサポートを行っております。保護者の皆様におかれましては、日頃より作業療法学科の教育にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

2022年度に入学された2年生の皆さんは、入学時から新型コロナウイルス感染症への対応を余儀なくされ、他大学よりも厳しい学習・生活上の制限があり、保護者の皆様の中にも驚かれた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような状況でしたが、2年生の皆さんは、新型コロナに対する感染対策を行いながら、1年時からほぼ対面での講義・演習を行うことができ、今年1月下旬には病院や施設での見学実習も無事に実施することができ、本学科教員一同安心したところがあります。

2年生では作業療法に関連する専門科目が増えてきます。どの科目も大事な科目に変わりはありませんが、3年生の専門科目を学習する上で基礎となる科目であり、しっかりと学習して欲しいと思います。また、2年生後期1月から2月上旬まで週1回の頻度で計5回、病院や施設での実習を行う予定です。今年5月に新型コロナが5類になり、大学のコロナ対応の基準は若干緩和されましたが、実習に関しては5類以前とほぼ同様の対応となっております。長期間の行動制限などありますが、自分自身で体調管理を徹底の上、大学の講義では経験できない貴重な臨床での勉強やコミュニケーションの機会を逃さないように望んでほしいと思っています。

保護者の皆様におかれましても健康にご留意いただき、引き続き本学の教育にご支援くださいますようお願いいたします。

行事紹介

令和5年度保健医療学部「保護者説明会」

教務委員長 小塚 直樹

8月20日、日曜日の午前、3時間の枠で令和5年度保健医療学部保護者説明会を開催しました。昨年度までは感染状況を考慮したZoomを用いてのWeb開催としておりましたが、今年度は5類移行となったことを受け、完全対面形式で準備を進め、開催に至りました。

当日は92名（看護学科:50名、理学療法学科:23名、作業療法学科:19名）の保護者のご参加をいただきました。ご多忙中、ご参加いただきましたことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の内容は、「学部の説明会」、「各学科の説明会と学内見学」、「個別相談会」の三部構成としました。学部の説明会では片寄学部長から、「保健医療学部の沿革」、「学修環境と進路の選択肢」、「保健医療学部30周年のお知らせ」の講話を行い、引き続き私より「学生の学修状況」について説明をしました。「5類移行後の学生生活の変化と感染対策」、「学生の心身の健康を管理する保健管理センターの紹介」、「札幌医科大学の学生として自覚すべき事案」をお伝えしております。

各学科の説明会では、三学科（看護、理学療法、作業療法）がそれぞれの教室に分かれ、各学科長より「学科毎の教育方針や学科の特徴」、「国家試験の結果」、「進路」について説明させていただきました。その後、図書館と各学科の学生が使用する教室、演習室等を見学後、希望者に対する個別相談会を実施し、「学生生活」、「成績」、「進路」に関するご質問に各学科の担当教員が応えました。

終了後に実施したアンケートでは、70名の方にご回答いただき（回収率76.1%）、三部共に90%程度の方が「満足をいただけた」旨の評価をいただいております。お寄せいただいた自由意見の中には、「各講演者、担当者の説明のわかりやすさ」、「素晴らしい大学キャンパス」、「学修環境が確認できた安心感」などが寄せられました。



(図書館見学の様子)

また、「学生生活を写真や動画で紹介してもらえたらよかった」、「保護者間の交流があればよかった」等、今後の企画へのご希望などの建設的なご意見のほか、多くのお礼を含む感想をお寄せいただきました。限られた時間での説明会ではありましたが、対面で行うことの重要性を実感しております。今回このイベントを企画運営した教員/事務組織では、今回いただいた貴重なご意見をもとに、我々の中で集約した改善意見を併せ、総合的に検討し、次年度の開催へと繋げたいと考えております。

皆様におかれましては、次年度に向け、引き続きご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



(学部の説明会の様子)

保健医療学部開設30周年記念事業について

保健医療学部開設30周年記念事業WG 代表

太田 久晶

保健医療学部は、本年、開設30周年を迎えました。それを記念して、3学科および学務課教務系の教職員で構成された保健医療学部開設30周年記念事業ワーキンググループおよび記念式典・祝賀会実行委員会により、保健医療学部開設30周年記念事業を企画・運営しております。今回、当事業の中から記念誌作成と記念特設サイト開設について、紹介いたします。

当事業として昨年度から作成をすすめていた「学部開設30周年記念誌」は、本年9月に発行されました。学部開設以来、初めての記念誌作成となりましたので、過去の情報収集に難渋しましたが、関係各所の方々から協力いただき、多くの資料と写真を掲載することができました。本記念誌は、保健医療学部の30年の歴史、業績が集約された内容となっております。今回は、冊子体のみならず、PDF版も作成し、次に紹介する「30周年記念特設サイト」に掲載いたしました。



(太田代表)



(学部開設30周年記念誌)

また、今年8月に「30周年記念特設サイト」を公開いたしました。コンテンツとしては、PDF版の保健医療学部開設30周年記念誌、記念誌には掲載されていない歴代学部長からのメッセージや保健医療学部30年の業績集を含む実績のほか、REP (Research, Education, Practice) talkが含まれます。このREP talkは、本学卒業生の活躍を紹介する動画コンテンツとなっております。これまでに、同窓会歴代会長の座談会の他、本学教員によるトークが掲載されており、来年3月まで、新規動画の掲載を続けて参ります。ぜひ、下記QRコードまたは、URL

(<https://sapmed-shs-30th-anniversary.com>) から当サイトへアクセスいただき、記念誌とともに、本学部の活動、業績についてご覧いただければ幸いです。



(特設サイト)

保健医療学部では、今後の更なる発展のために教職員が一丸となって精進し、努力を重ねていく所存でございます。これまでと同様に、本学部の活動にご理解、ご協力のほど、宜しく申し上げます。

教員紹介（医療人育成センター：物理学 講師 高塚 伸太郎）



保健医療学部では1年生の物理学と自然科学実験を担当しています。これらの講義では物理学の基本原則からその応用までを取り上げています。物理学は私たちの日常生活に溶け込んでいます。物理がどのように私たちの周りの現象を説明し、制御しているのかを理解することは、科学への洞察を深める一歩となるでしょう。

医療系分野でももちろん様々なところに物理が溶け込んでいます。MRIやX線、超音波診断装置などの診断装置はもちろんのこと、筋肉や骨による運動、細胞や組織の働き、分子の反応に至るまでその現象を理解する根本には物理が必要です。このためにはただ式を覚え計算できるようになるだけではなく、式が意味しているものを理解し様々なものに当てはめることができるようになる必要があります。

私の講義ではただ情報を伝えるだけでなく、皆さんが疑問を持ち、探求心を育む場を提供したいと考えています。そのためになるべく実際のものや現象を例に挙げ、その現象を理解するためにはどのような法則が背景にあることを知る必要があるのかという点を留意して講義を構成しています。

例えば、冬に乾燥すると静電気でよく感電することがあると思います。この現象には電気が関わっていることもみなさんはよく知っていると思います。ですが、静電気でバチっとただけで、なぜ怪我もしていないのに痛みを感じるのか。そう問われると答えることは難しいと思います。この痛みと同じくらいの痛みを怪我や火傷で表現するとかなりの外傷になるはずですが、それなのに感電では無傷の状態でも痛いのですから不思議なことです。『電気で刺激する』と表現してしまうと簡単ですが、刺激するとは何でしょうか？どうして外傷をつけずに刺激にすることができるのでしょうか？この現象は電気現象ですから答えは物理学の電磁気学の延長上にあります。

また理論だけではなく実験も重要です。自然科学実験では限られた範囲ではありますが、物理の概念が現実世界とどのようにリンクしているのかを体験し、そこからその背景にあるものを考察していただきます。実験の中でのデモンストレーションやグループディスカッションを通じて抽象的な概念を視覚化し、現象の予測や表現方法を模索することでより物理的な興味を引き出す努力をしています。

物理学は変化し続ける分野であり、新たな発見が常に行われています。どんなバックグラウンドをお持ちの方でも、物理学の魅力を味わい、自身の成長を感じていただければ幸いです。一緒に学び、考え、新たな視点を得る素晴らしい時間を共有できることを楽しみにしています。



【令和5年度 後期学事予定】（1～4学年）

（4学年共通）

9月25日～ 後期講義開始
 10月10日～ "（3年生・作業）
 10月12日～10月14日 体育祭
 12月1日 文化芸術祭
 3月15日 卒業式

（3年生）

9月11日～2月22日 臨地実習（看護）
 9月25日～10月6日 臨床実習（作業）
 12月18日～1月3日 冬季休業
 1月22日～1月26日 後期定期試験（理学）
 1月29日～2月22日 臨床実習（理学）
 2月13日～3月1日 後期定期試験（作業）

（1・2年生）

12月～ 臨床実習（2年生・理学）
 12月18日～1月3日 冬季休業
 1月～ 臨床実習（2年生・作業）
 1月22日～1月26日 臨床実習（1年生）
 1月29日～2月9日 臨地実習（2年生・看護）
 2月13日～3月1日 後期定期試験

（4年生）

9月25日～11月2日 臨地実習（看護）
 12月18日～1月3日 冬季休業